

PC遠隔操作事件が明らかにした 取調べの実態

～無実のあなたも自白する～

「やっていない人が、自白なんてするはずがない」

PC遠隔操作事件は、この思い込みが誤っていることを明らかにしました。

では、被疑者・被告人とされた無実の方は、一体どういう心理状態に陥り、なぜ虚偽の自白をしてしまうのでしょうか。

この集会では、自白を得るために取調官が用いている様々な具体的手法、その危険性について、実際にえん罪被害者の弁護人を務めた弁護士、取り調べる側を経験した元検察官、取調べにおける心理に詳しい心理学者から、それぞれの経験を踏まえてお話しいただき、密室取調べの実態、虚偽自白が生まれる過程を明らかにします。

**参加無料
事前申込不要**

プログラム

● 講演

◆ PC遠隔操作事件における取調べの実態

土橋 央征 弁護士(PC遠隔操作大阪事件えん罪被害者弁護人)



◆ 密室取調べの構造的な問題点

落合 洋司 弁護士(元検察官)



◆ 人が虚偽自白に至る心理状態とは

高木光太郎 青山学院大学大学院教授(法心理学)



◆ 取調べの可視化を巡る法制審議会の議論状況

小坂井 久 弁護士(日弁連取調べの可視化実現本部副本部長)



● パネルディスカッション

パネリスト

土橋氏、落合氏、高木氏のほか、

桜井 昌司 氏

(布川事件えん罪被害者)



コーディネーター

菊地 幸夫 弁護士

(テレビ「行列のできる法律相談所」等でおなじみ)



日時

2013年
(平成25年)

3月25日月

● 午後6時30分～8時30分

【午後6時00分開場】

会場

弁護士会館2階講堂クレオ

東京都千代田区霞が関1-1-3



東京メトロ丸の内線、日比谷線、千代田線「霞が関駅」B1-b出口より直通